

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科での研修を終えて

横浜市立みなと赤十字病院食道・胃外科

久保 博一

2019年度日本臨床外科学会国内外科研修プログラムにて、熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科で2019年9月9日から13日までの1週間研修をさせていただきました。このような非常に貴重な機会を与えていただき、日本臨床外科学会会長の跡見裕先生、国内外科研修委員会委員長の高山忠利先生をはじめとした委員の先生方に心より御礼申し上げます。

私は横浜市立大学を2009年に卒業後、2011年より横浜市立大学消化器腫瘍外科学に入局をいたしました。2019年4月より上部消化管を専門とさせていただいており、そのような中で今回の外科研修のお話をいただき、全国でも有数の食道癌手術件数を誇っておられる熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科を希望させていただきました。馬場秀夫教授をはじめ、教室員の先生方には本当に温かく迎えていただき、丁寧なご指導を賜り充実した研修を送らせていただきました。また、同講座の吉田直矢特任准教授には研修期間中に多大なる配慮をいただき、見学や研修の枠を超えた参加型の非常に濃厚な機会を与えていただきましたことを感謝申し上げます。

研修期間中は、食道癌の手術を中心に学ばせていただきました。1週間という非常に短い研修期間の間に食道癌の手術を3件、腹腔鏡下幽門輪温存臍頭十二指腸切除術を1件経験させていただきました。食道癌の手術では、亜全胃管再建、結腸再建、山岸胃管と3件の手術それぞれ再建法が異なり、非常に勉強になりました。胸部、腹部操作を完全鏡視下で行うことで非常に侵襲が少なく、反回神経周囲の郭清などの繊細な手技はととても勉強になりました。また、病棟の半数を食道癌の症例が占める中で、食道癌の周術期管理から化学療法、緩和ケアまで決して多いとは言えないスタッフの人数で円滑かつ丁寧に治療に当たられていることが非常に印象的でした。

1週間の研修期間は、気付くとあっという間に終了を迎えておりました。それだけ学ぶものが多い充実した研修であったからだと思います。この日本臨床外科学会の国内臨床研修では、様々なことを学び・経験することができ、私にとって大きな財産となりました。同時に、自分の医局内の施設内で学ぶだけではなく、他施設へ研修や見学など積極的に参加することの重要性を改めて感じました。今後、この研修で得たものを還元し、活かせるようにしていきたいと思います。最後になりますが、本研修にあたり快く送り出してくださった当院外科の杉田光隆外科部長、スタッフ、レジデントの先生方にこの場をお借りして心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



研修初日 熊本大学附属病院（白川にかかる橋から）